資料１

# 第３次京田辺市生涯学習推進基本計画
# ～アンケート要点まとめ～

## １．個人向けアンケート調査

### （１）結果から読み取れる示唆

市民の学ぶ意欲だけでなく、「学んだ成果を地域で活かしたい」という意欲を確認した。一方で、実際に活用する段階とはギャップがある。学習機会そのものの充実に加えて、「学ぶ→つながる→地域で活かす」までの接続部分に課題がある。今後は、情報提供や人、活動をつなぐ仕組みづくりが重要である。

### （２）特徴的な結果

① 学びを地域に活かしたい人は、実際に活かせている人より多い（P.27～29）
② 働く世代の学び直しのニーズはかなり高い傾向にある（P.19）
③ AI はこれまでよりも「これから」の学習ニーズが大きい（P.7～8、P.17～18）
④ 地域活動に参加したくないというよりも、「何をすればいいか分からない」が大きい（P.32～35）
⑤ 世代によって学び方（方法）が違う傾向がある（P.9～10、P.20～21）

## ２．団体向けアンケート調査

### （１）結果から読み取れる示唆

団体の活動意欲は依然として高い傾向にある。一方で、高齢化・新規会員不足が進んでおり、活動の継続や継承に危機感を持っている。行政は、会員募集・PR や活動場所の支援が求められている。

### （２）特徴的な結果

① 団体の高齢化や担い手不足がかなり深刻な課題（P.43、P.49）
② 活動意欲そのものは低下していない（P.50）
③ 行政に求めている支援は「人（会員など）を集めること」（P.52）
④ 学習成果は活用しているが、団体内・イベント型が中心になっている（P.47）

## ３．区・自治会向けアンケート調査

### （１）結果から読み取れる示唆

公民館は地域の交流拠点として重要な役割を果たしている。一方で、利用者の高齢化が進み、次世代への継承が大きな課題となっている。

### （２）特徴的な結果

① 公民館の役割は交流・仲間づくりが圧倒的（P.59）
② 利用者（会員）が高齢者に偏っている（P.59）
③ 高齢化と担い手不足が活動継続の最大の課題（P.61）
④ 他団体とのつながりが弱い（P.63）
⑤ 行政には「場所」より「情報・相談・人材支援」を求めている（P.64）